

# 中小企業の景気動向調査

第151回「中小企業の景気動向調査」をお届けいたします。

## 調査要項

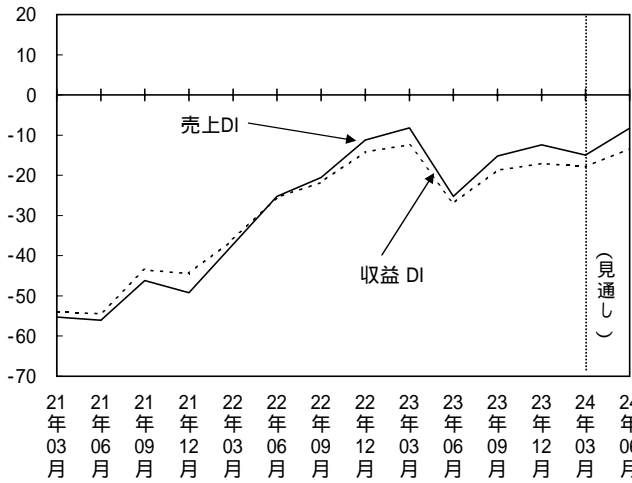
調査時点	平成24年3月上旬
調査対象期間	平成24年1月～3月実績 平成24年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,843社(大阪府下ならびに尼崎市)
回答企業数	1,334社
回答率	72.4%
調査方法	調査票郵送及び聞きとり調査
分析方法	アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差(DI)を中心にして分析を行いました。

## アンケートの内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	63	49	117	53	39	59	3	52	435	32.6%	32.6%
5～10	113	54	29	18	77	53	12	20	376	28.2%	60.8%
11～20	103	28	12	9	44	32	18	5	251	18.8%	79.6%
21～30	36	10	11	11	11	6	14	1	100	7.5%	87.1%
31～50	36	9	9	5	3	12	11	4	89	6.7%	93.8%
51～100	20	6	7	1	7	6	7	0	54	4.0%	97.8%
101～	8	4	2	2	0	8	4	1	29	2.2%	100.0%
計	379	160	187	99	181	176	69	83	1,334	100.0%	
構成比	28.4%	12.0%	14.0%	7.4%	13.6%	13.2%	5.2%	6.2%	100.0%		

# 景気は「足踏み状態」へ！先行きには期待感あり！

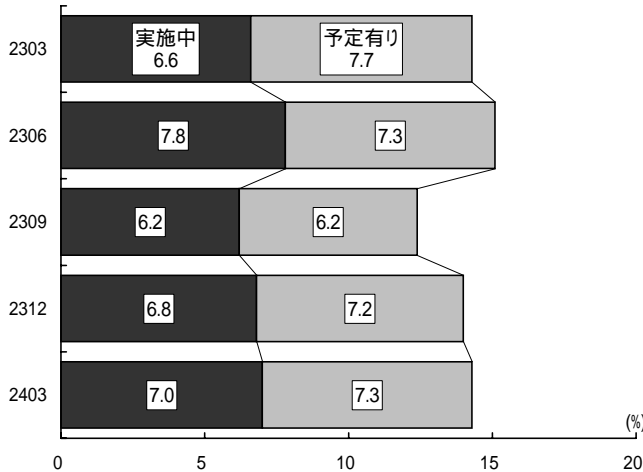
【売上受注・収益DIの推移】



景気は足踏み状態へ

売上DIはマイナス15.0（前回比 - 2.6ポイント）、収益DIはマイナス17.8（前回比 - 0.8ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成24年4-6月期は、売上DIで6.7ポイント、収益DIで4.4ポイント上昇すると予想しています。平成23年10-12月期に比較して、売上DIは卸売業、小売業、不動産業で、収益DIは、製造業、卸売業、不動産業でやや回復が見られましたが、その他の業種では下落しました。平成24年1-3月期の企業の景気は足踏み状態にあります。しかし、平成24年4-6月期の見通しは、急速な円高はやや解消に向かい株価の上昇も見られることから、売上・収益DIともに上向くと予想しています。特に売上DIは、震災前の水準まで回復すると見込んでいます。

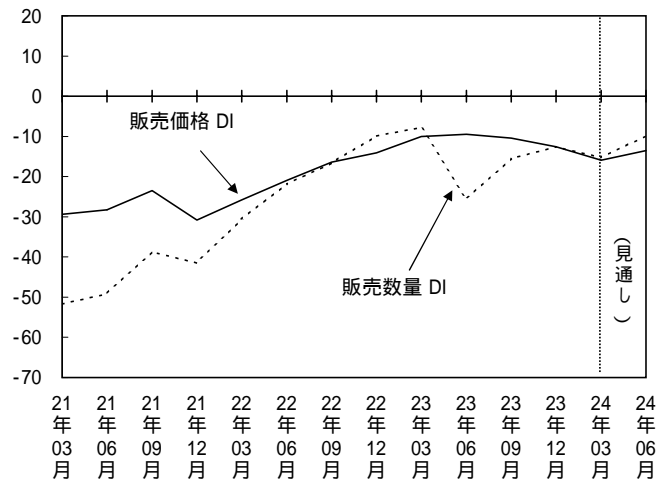
【設備投資】



冷え込む設備投資

「実施中」は7.0%（前回比 + 0.2ポイント）、「予定有り」は7.3%（前回比 + 0.1ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は14.3%です。平成24年1-3月期の景況感は足踏み状態となり、設備投資意欲は依然として冷え込んだままです。機械等は壊れるまで使う傾向は一層強く、景気回復の見通しや材料が少ないなかでは設備投資意欲は上向かない状況が続いています。

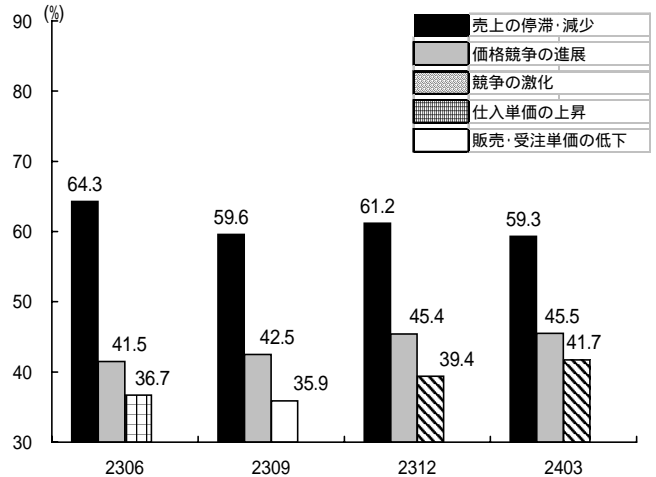
【販売価格・数量DIの推移】



販売価格DI・販売数量DIともに下落

販売価格DIはマイナス15.9（前回比 - 3.3ポイント）、販売数量DIはマイナス15.2（前回比 - 2.6ポイント）となり、販売価格・販売数量DIともに悪化しました。平成24年4-6月期は、販売価格DIが2.4ポイント、販売数量DIが5.3ポイント上昇すると予想しています。景気の先行きに不透明感が漂うなか、消費者の購買意欲は低下し、販売価格・数量ともに下落しました。しかし、株価の上昇など景気の先行きに好材料も見られはじめたことから、平成24年4-6月期では、販売数量DIは平成22年10-12月期の水準まで回復すると見込んでいます。

【経営上の問題点】（複数回答）



復興需要は来るか？

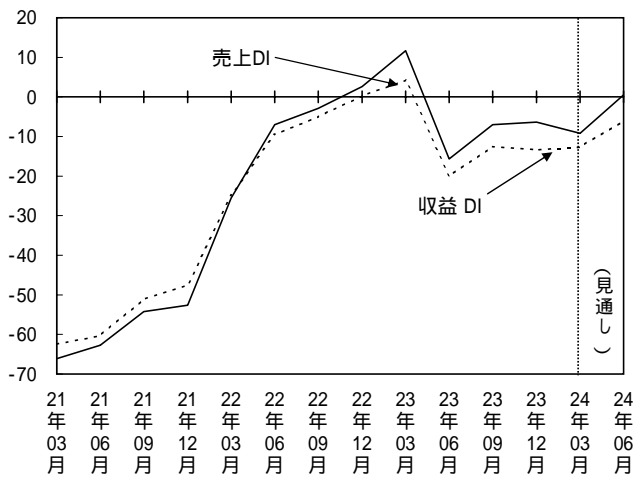
第一位は「売上の停滞・減少」が59.3%、第二位は「価格競争の進展」が45.5%、第三位は「競争の激化」が41.7%と続きます。平成24年1-3月期は景気は足踏み状態となり、同業者間の競争は一層激しくなっています。しかし、急速な円高の解消や株価の回復など、見通しに明るさが少し感じられるようになりました。今後、復興需要に期待する声もありますが、復興需要が関西にどのような影響を及ぼすかは不透明です。また、今夏の電力不足への懸念が増すなか、昨夏以上の節電要請も考えられます。間断ない景気対策の実施が必要と思われます。

（中小企業診断士：平山）

# 製造業 (379社)

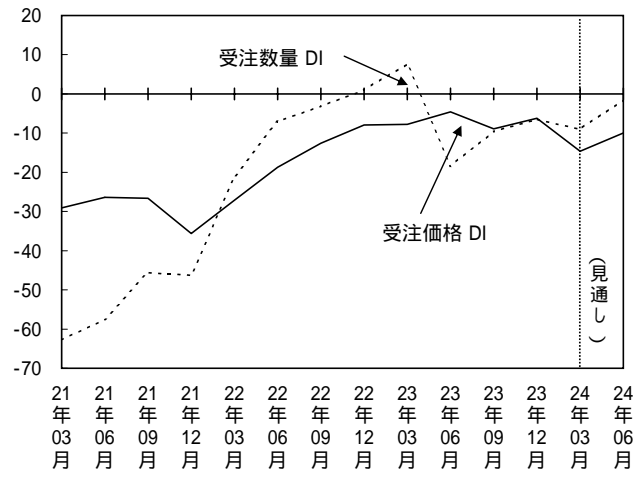
## 円高やや解消！復興需要には期待できるか？

【売上受注・収益DIの推移】



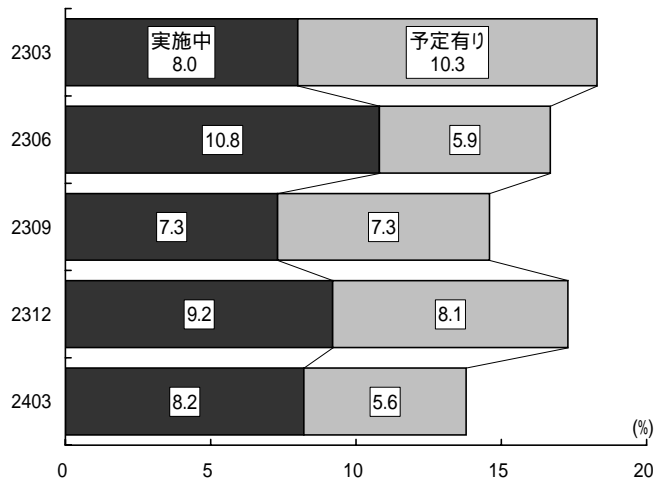
**売上DI下落、収益DI微増**  
 売上DIはマイナス9.2（前回比 - 2.8ポイント）、収益DIはマイナス12.7（前回比 + 0.6ポイント）となり、売上DIは下落し収益DIは微増となりました。平成24年4-6月期は、売上DIが9.7ポイント、収益DIは6.6ポイント上昇すると予想しています。  
 売上DI下落の背景には、円高の影響の他にも、今冬の節電対策に取組んだ影響も少なからずあったと思われます。平成24年4-6月期の見通しでは、円高がやや解消されたこと、また株価の上昇などから売上・収益DIともに回復すると予想しています。復興需要への期待感もありますが、大阪にどの程度の需要が見込まれるのかは、今のところ不明です。

【受注価格・数量DIの推移】



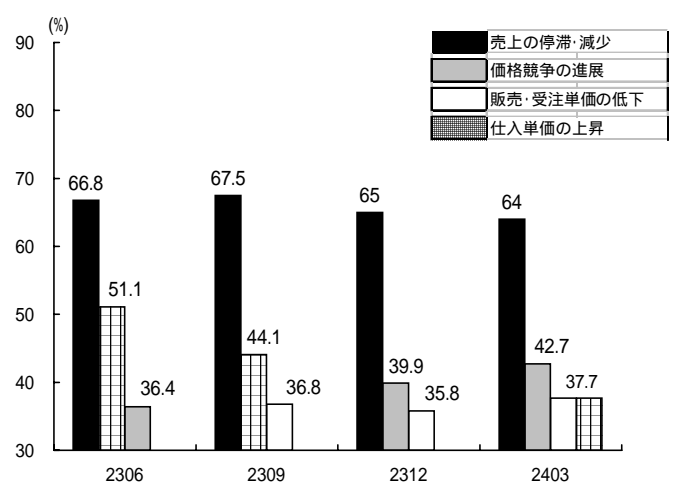
**価格・数量DI回復の見通し**  
 受注価格DIはマイナス14.6（前回比 - 8.4ポイント）、受注数量DIはマイナス9.0（前回比 - 2.5ポイント）となりました。平成24年4-6月期は、受注価格DIが4.6ポイント、受注数量DIは7.4ポイント上昇すると予想しています。製造業では、他業種に比較して円高の影響が大きく、平成23年10-12月期に回復した販売価格・数量DIは今回大きく後退しました。  
 企業のなかには、震災によるゴミ処分用の養生マットの需要が急増し売上高が増加している企業や、自動車向けワイヤーロープ製造業でタイの洪水の影響が収まった以降も受注が増加している企業もあります。

【設備投資】



**12月比下向く、依然低調な設備投資**  
 「実施中」が8.2%（前回比 - 1.0ポイント）で、「予定有り」は5.6%（前回比 - 2.5ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は13.8%です。  
 製造業では、商品サイクルがこれまで以上に短くなり競合が激しくなっています。  
 企業のなかには、工場用地を購入するなど「代表者が若く、何事にも意欲的」な企業もありますが、業界全体としては設備投資意欲は低迷していると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



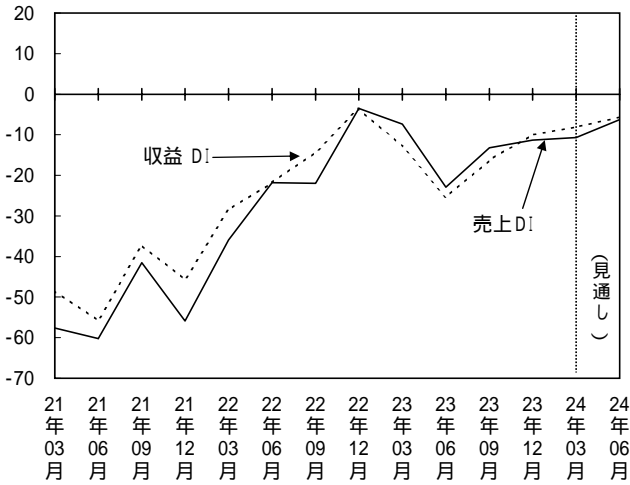
**懸念される円の高騰**  
 第一位は「売上の停滞・減少」が64.0%、第二位「価格競争の進展」が42.7%、第三位「販売・受注単価の低下」「仕入単価の上昇」がそれぞれ37.7%となりました。  
 円高の影響により、同業者間での価格競争はますます熾烈になっています。仕入単価の上昇と相まって、売上高は確保できても収益の確保が厳しい企業が増加していると思われます。価格競争は一層激しくなっていますが、昨今は円高がやや解消に向かうなど明るい材料も出始めており、先行きへの期待は高まっています。

(中小企業診断士：兵庫、井筒、小阪、吉田、楠)

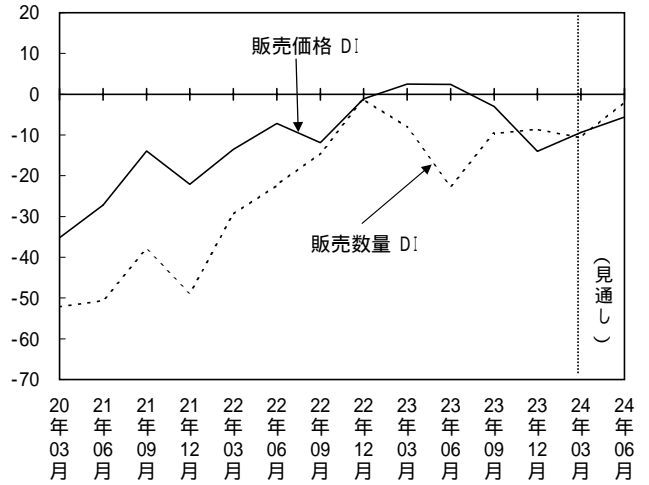
# 卸売業 (160社)

## 売上・収益ともにやや改善！回復基調は続く！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



### 売上・収益DIともに回復

売上DIはマイナス10.7（前回比+0.6ポイント）、収益DIはマイナス8.1（前回比+1.9ポイント）となり、売上・収益DIともに上昇しました。

平成24年4-6月期は、売上DIが4.4ポイント、収益DIが2.5ポイント上昇すると予想しています。

ドラッグストアでは、医薬品以外に食品を陳列する傾向は一層強まり、売上が増加する傾向にあります。

宿泊施設向け消耗品卸売業では、東北地方で復興事業に携わるビジネス客が増加したことからのこの方面のビジネスホテル向けの売上が例年の1.5倍に上昇しています。しかし、首都圏向けは、放射能問題で出張を控える傾向が現在も続いており、売上が低迷しているようです。

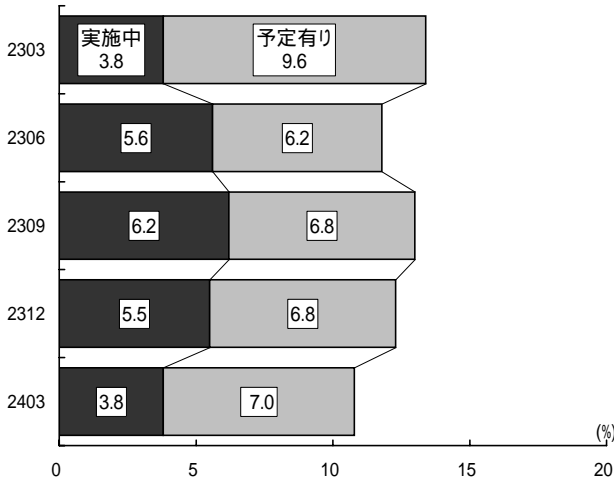
### 回復する販売価格DI

販売価格DIはマイナス9.4（前回比+4.6ポイント）、販売数量DIはマイナス10.6（前回比-2.0ポイント）となりました。平成24年4-6月期は、販売価格DIが3.8ポイント、販売数量DIが8.7ポイント上昇すると予想しています。

非鉄金属卸売業では、相場価格の下落により販売数量は増加しています。

食器卸売業のなかには、アジアの富裕層向けに南部鉄器の輸出を手がけ売上が増加する企業もあります。

【設備投資】



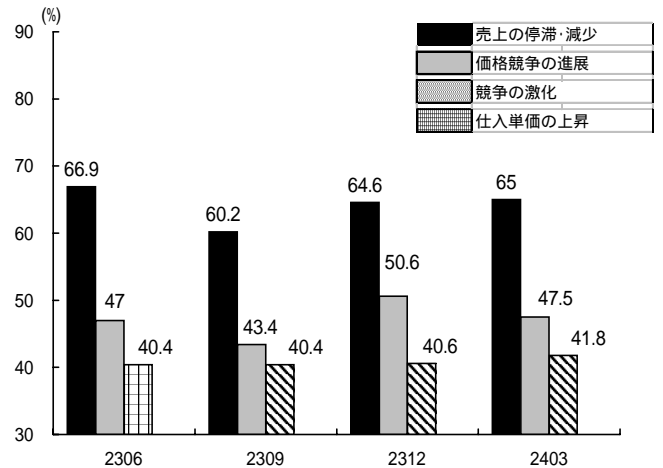
### 低空飛行が続く設備投資

「実施中」が3.8%（前回比-1.7ポイント）、「予定有り」は7.0%（前回比+0.2ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は10.8%です。

設備投資は依然低調な推移に変わりはありません。

設備投資は、震災直後の平成23年6月期よりも落ちこみだけではなく、過去1年間で最も落ち込む結果となりました。設備投資の回復は、当分見込めないと考えられます。

【経営上の問題点】(複数回答)



### 根強い「価格競争の進展」

第一位は「売上の停滞・減少」で65.0%、第二位は「価格競争の進展」で47.5%、第三位は「競争の激化」で41.8%となりました。

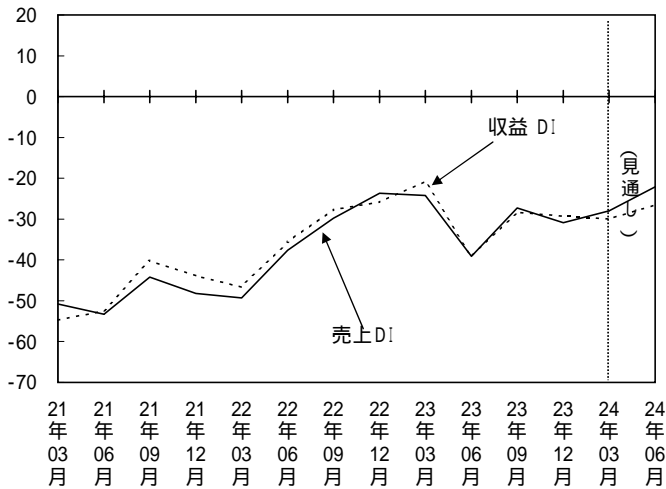
季節商品など服飾雑貨類を扱う卸売業では、天候不順により商品を販売するタイミングが難しい上に商品の販売サイクルが短く、今後の販売計画が立てにくくなっています。

(中小企業診断士：稲津、真下、嶋田)

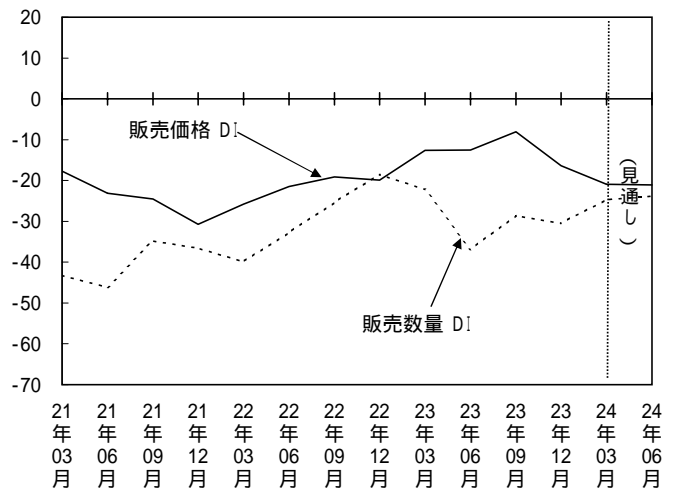
# 小売業 (187社)

## どこまで下がる販売価格！価格に敏感な消費者！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



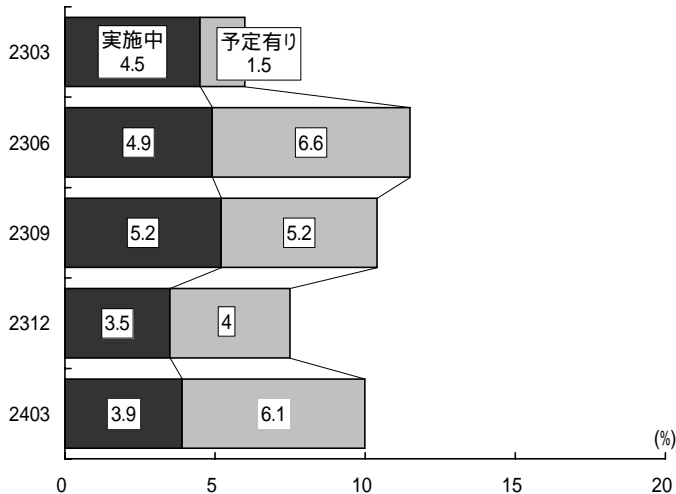
### 売上DI改善・収益DI悪化

売上DIはマイナス28.0（前回比+2.9ポイント）、収益DIはマイナス29.9（前回比-0.7ポイント）となり売上DIは上昇しましたが収益DIは下落しました。平成24年4-6月期は、売上DIが5.9ポイント、収益DIが3.4ポイント上昇すると予想しています。売上DIが少し上向きましたが、大型量販店との競合やネット販売など販売チャネルの多様化により苦戦を強いられています。小売店では、コンビニでの購入が比較的多い若年層よりも、高齢者を対象とした催事を行って売上高を維持する店舗が多い状況です。

### 販売価格の下落傾向は鮮明に

販売価格DIはマイナス20.9（前回比-4.5ポイント）、販売数量DIはマイナス24.7（前回比+5.8ポイント）となり、販売価格DIは悪化しましたが、販売数量DIは改善しました。平成24年4-6月期の見通しは、販売価格DIが0.2ポイント下落、販売数量DIが0.9ポイント上昇すると予想しています。薄型テレビの値崩れは激しく、価格を下げてでも売れない状況は続いており、他の商品も値下げしても売れない悪循環に入りつつあります。価格に厳しい消費者の傾向は当分続くと思われる。

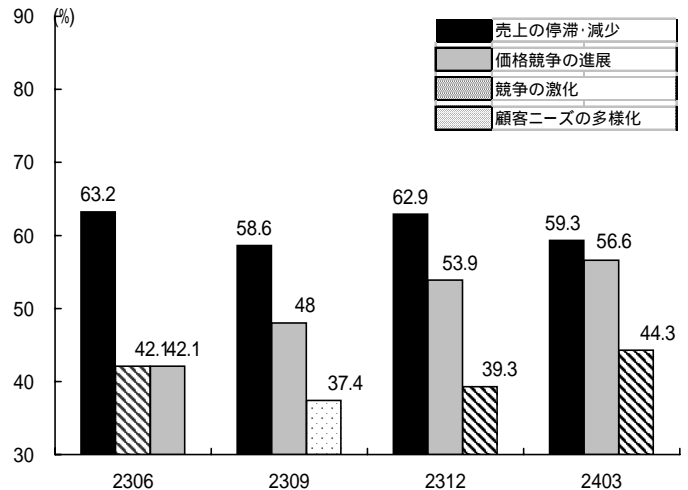
【設備投資】



### 落ち込む設備投資

「実施中」は3.9%（前回比+0.4ポイント）、「予定有り」は6.1%（前回比+2.1ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は10%となりました。設備投資は、平成23年9月期の水準まで戻りましたが、依然として設備投資は低調推移にあります。販売チャネルの多様化により、価格競争はこれまでに以上に激しく、当分設備投資どころではないのが現状と思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



### ネットで価格動向を調査する消費者

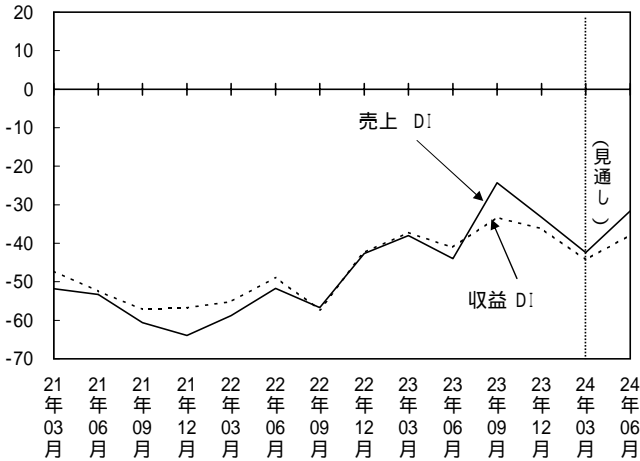
第一位「売上の停滞・減少」が59.3%、第二位「価格競争の進展」が56.6%、第三位が「競争の激化」で44.3%となりました。「価格競争の進展」と「競争の激化」が、23年6月以降、最も大きな経営上の問題点となっています。販売チャネルの多様化にともない、消費者はパソコンや携帯電話などにより常に最新の価格動向を把握しています。小売店では、ネット販売価格に対抗できず、値下げしても商品は売れない状況にあります。

(中小企業診断士：畑、金澤)

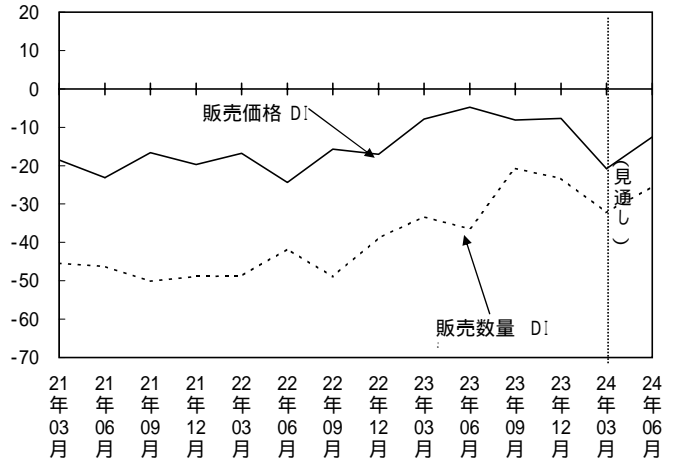
# 飲食業 (99社)

## 売上・収益ともに下落！苦戦する飲食業！

【売上受注・収益DIの推移】



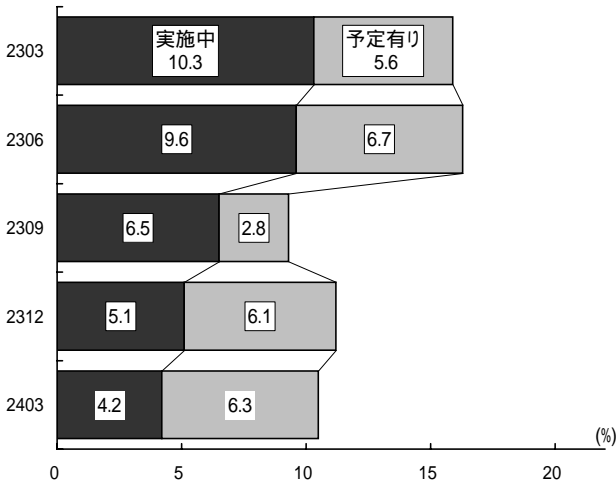
【販売価格・数量DIの推移】



厳しい飲食業、売上・収益DIともに悪化  
 売上DIがマイナス42.4（前回比 - 9.1ポイント）、  
 収益DIがマイナス44.3（前回比 - 8.1ポイント）となり、  
 売上・収益DIともに下落しました。平成24年4-6  
 月期は、売上DIが10.8ポイント収益DIが6.5ポイント  
 上昇すると予想しています。  
 例年に比較して新年会も少なく、景気の先行き不透明  
 感が漂うなか消費者の財布の紐は固く、飲食業は苦戦を  
 強いられています。  
 最近は、全品同一価格のチェーン店が急増し、ますます  
 来店客が減少しています。3月の異動の時期に入り、  
 予約が増加する飲食店も一部に見られますが、大半の飲  
 食店は飲食関連の情報誌などに取り上げられるなどの話  
 題性がないと、お客を呼び込めない状況にあります。

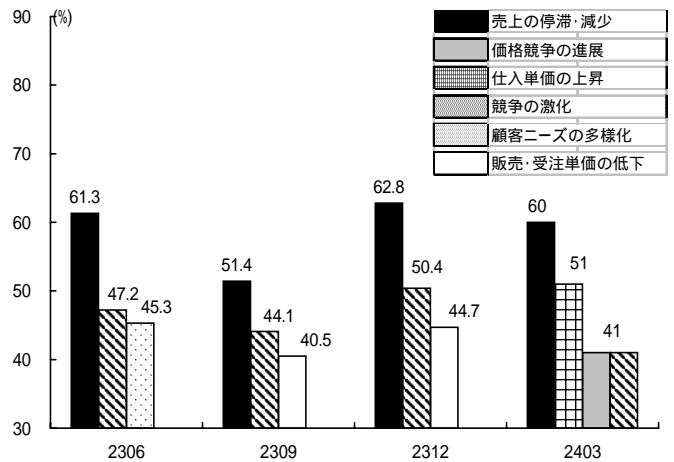
販売価格・販売数量DIともに大きく下落  
 販売価格DIはマイナス20.8（前回比 - 13.1ポイン  
 ト）、販売数量DIはマイナス32.2（前回比 - 8.9ポイン  
 ト）となり、販売価格DI・販売数量DIともに下落しま  
 した。平成24年4-6月期は、販売価格DIが8.3ポイント、  
 販売数量DIが6.7ポイント上昇する見通しです。  
 販売価格・販売数量DIともに大きく下落し、セット販  
 売や飲み放題などの安い価格設定でも、大型チェーン店な  
 どの競争は激しく苦戦しています。  
 顧客は、景気の低迷や厳冬の影響で、立ち飲み店などで  
 短時間の飲食で済ませる傾向にあります。  
 飲食業では、集客を図るため割引券を配布していますが、  
 このような取組みはどの飲食店でも行っており、来店  
 客の増加に結びついていません。

【設備投資】



完全に冷え込んだ設備投資  
 「実施中」は4.2%（前回比 - 0.9ポイント）、「予定  
 有り」は6.3%（前回比 + 0.2ポイント）となりました。  
 「実施中」と「予定有り」の合計は10.5%です。  
 「予定有り」は23年9月から増加し、設備投資に意欲  
 的な企業は増加していますが、飲食業界の不振を背景  
 に、設備投資を行いたくも踏み切れないのが現状と思  
 われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



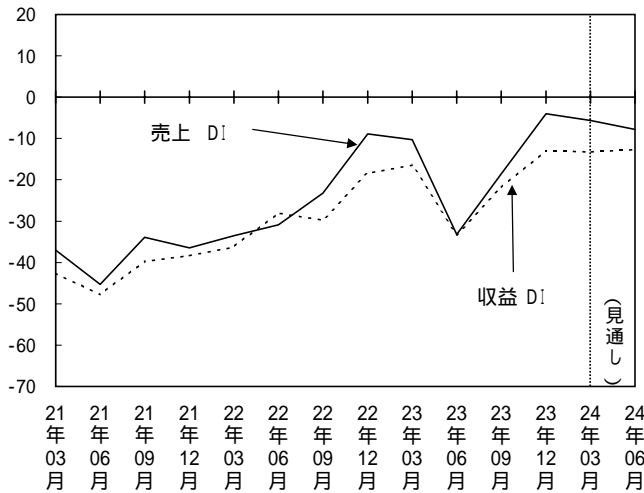
食材価格の高騰と価格競争の狭み撃ち  
 第一位「売上の停滞・減少」が60.0%、第二位「仕入れ  
 単価の上昇」が51.0%、第三位「価格競争の進展」「競争  
 の激化」がそれぞれ41.0%となりました。  
 天候不順により、大根など野菜価格を中心に食材価格が  
 上昇し、「仕入れ単価の上昇」が大きな問題となりまし  
 た。景気の先行き不透明感を背景に、消費者の財布の紐は  
 固く、飲食業では苦戦が続きます。

(中小企業診断士：兵庫、仲井、永井)

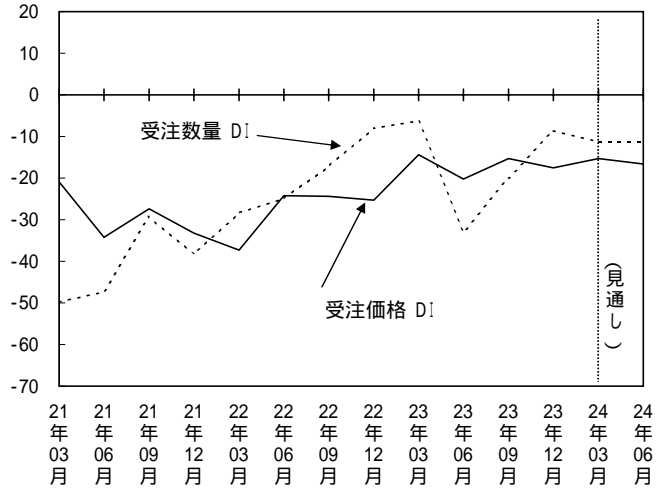
# 建設業 (181社)

## 回収条件悪化！少ないパイの奪い合いは続く！

【売上受注・収益D Iの推移】



【受注価格・数量D Iの推移】



### 売上・収益D Iとも下落

売上受注D Iはマイナス5.6（前回比 - 1.6ポイント）、収益D Iはマイナス13.2（前回比 - 0.3ポイント）となり、売上・収益D Iとも下落しました。平成24年4-6月期は、売上D Iが2.2ポイント下落、収益D Iが0.5ポイント上昇すると予想しています。

受注の中心は、依然としてリフォームが中心ですが、回収条件は最終一括払いの上に支払時の値引きも常態化しています。公共工事は減少しており、受注額は小口化する上に数多くの企業が入札するなど、少ないパイの争奪戦が繰り広げられています。

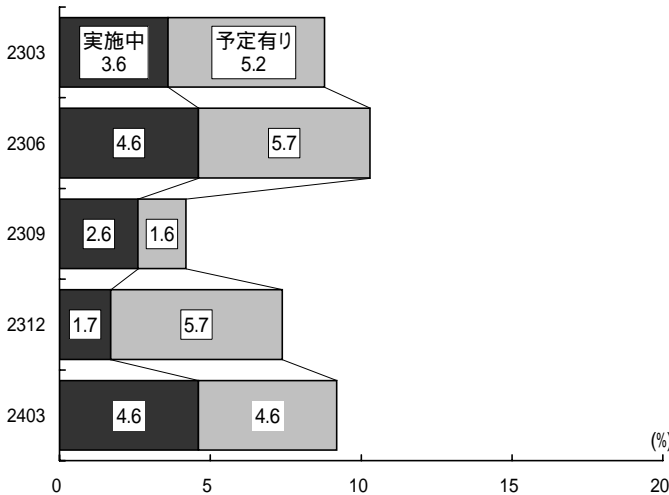
### 受注数量D Iはブレーキ

受注価格D Iはマイナス15.3（前回比 + 2.2ポイント）、受注数量D Iはマイナス11.2（前回比 - 2.6ポイント）となり、受注価格D Iが少し改善しました。

平成24年4-6月期は、受注価格D Iが1.3ポイント下落し、受注数量D Iは0ポイントで変化なし予想しています。

建設業では、公共工事が減少し復興需要もほとんど実感がなく、春先の新規受注も少ない状況です。販売数量が少ない上に利幅は薄い仕事が大部分を占め、この傾向は平成24年4-6月期も続くと思われます。

【設備投資】



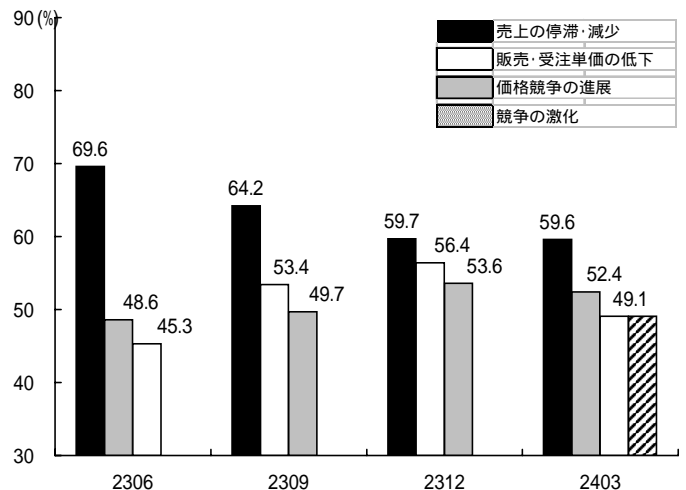
### 冷める設備投資意欲

「実施中」は4.6%（前回比 + 2.9ポイント）、「予定有り」は4.6%（前回比 - 1.1ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は9.2%です。

建設業では、売上高の確保が難しい状況が続くなか、設備は壊れるまで使用し必要なものしか購入しない傾向は、ますます強くなっています。

業界全体としては、設備投資意欲はしばらく低調に推移すると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



### 根強い問題点「販売・受注単価の低下」

第一位「売上の停滞・減少」が59.6%、第二位「価格競争の進展」が52.4%、第三位「販売・受注単価の低下」「競争の激化」がそれぞれ49.1%となりました。受注が減少するなか、受注獲得競争はますます激化し、赤字覚悟の受注もあります。

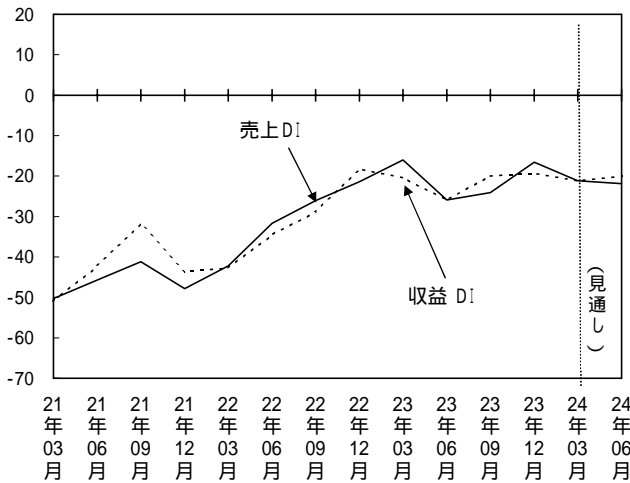
震災復興需要への期待はありますが、関西にどの程度の受注があるのかは不透明です。

(中小企業診断士：小林、井筒)

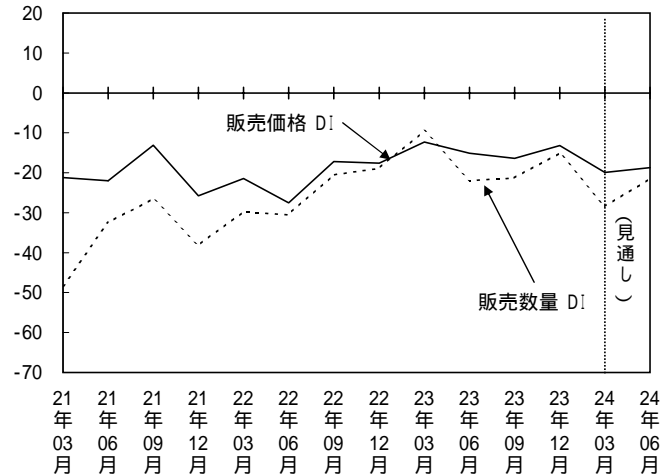
# サービス業 (176社)

## 落ちこむ販売数量！「競争の激化」最大の問題点！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



### 売上・収益DIともに減少

売上DIはマイナス21.2（前回比 - 4.6ポイント）、収益DIはマイナス21.2（前回比 - 1.9ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成24年4-6月期は、売上DIが0.7ポイント下落、収益DIが1.2ポイント上昇すると予想しています。

介護サービスでは、既存顧客は安定しているものの、新規顧客の獲得は困難になっています。インターネット関連事業では、売上が好調な企業と低迷する企業との二極化が進んでいます。

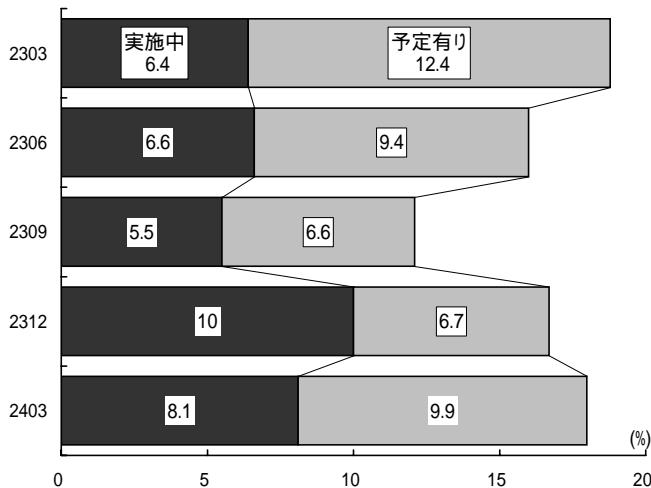
産業廃棄物処理業では、不況により廃棄物が減少し過当競争が起きていますが、東日本大震災による瓦礫の受入が実施されれば、運搬や廃棄処理で需要が見込まれます。

### 落ち込む販売数量DI

販売価格DIはマイナス19.9（前回比 - 6.7ポイント）、販売数量DIはマイナス28.5（前回比 - 13.5ポイント）となりました。平成24年4-6月期は、販売価格DIが1.2ポイント、販売数量DIが7.1ポイント上昇すると予想しています。

1-3月期は、販売数量が大きく落ち込みました。消費者の購買意欲は低く、サービス業向けの消費は控える傾向は強まっています。自動車整備業では、依然として持込台数の減少が続く、また整骨院は開院数が多く過当競争となっています。

【設備投資】

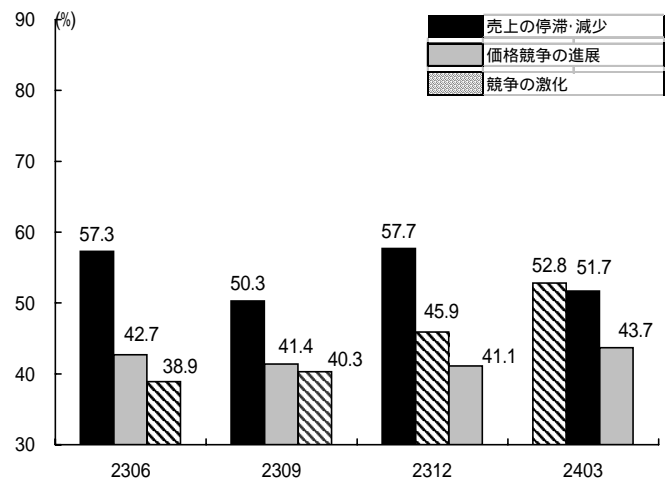


### 震災前の水準に戻る設備投資

「実施中」が8.1%（前回比 - 1.9ポイント）、「予定有り」が9.9%（前回比 + 3.2ポイント）となり、「実施中」と「予定あり」の合計は18.0%となりました。産業廃棄物処理業では、粉砕機などの機械は、価格は安いですが故障の多い中国製よりも、故障の少ない日本製の機械を購入したいものの価格が高く、購入に二の足を踏む企業があります。

24年3月期、設備投資は震災前の水準まで回復しています。サービス業では他業種に比較して、設備投資は上向きつつあると思われます。

【経営上の問題点】（複数回答）



### 根強い節約志向

第一位は「競争の激化」が52.8%、第二位は「売上の停滞・減少」が51.7%、第三位は「価格競争の進展」が43.7%となりました。

サービス業での経営上の問題点では、「競争の激化」が「売上の停滞・減少」を上回り大きな問題点となりました。

消費者の根強い節約志向のなか、サービス業では他業種に比較して、業者間の競争が一番激しくなっているものと思われます。

（中小企業診断士：尾崎、竹並、金澤、嶋田）

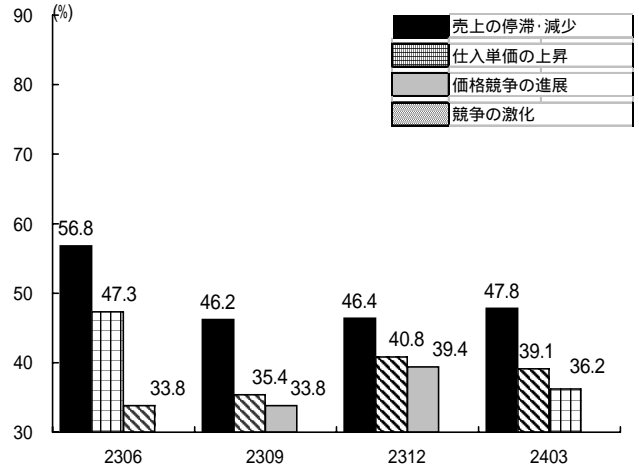
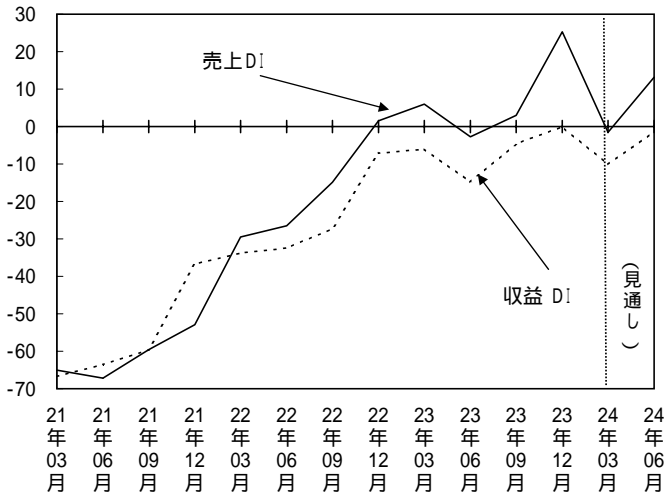


# 運輸業 (69社)

## 物流量減少！迫るガソリン価格の高騰！

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



売上DI・収益DIともに大きく下落  
 売上受注DIがマイナス1.5(前回比-26.8ポイント)、収益DIがマイナス10.2(前回比-10.2ポイント)と売上・収益DIともに大きく下落しました。  
 平成24年4-6月期は、売上DIが14.7ポイント、収益DIが8.8ポイント上昇すると予想しています。  
 運輸業では、取扱う商品により売上に大きな波があります。1-3月期は、景気の低迷により物流量が減少し、運送業も売上・収益DIともに大きく落ち込みました。

忍び寄るガソリン価格の高騰  
 第一位「売上の停滞・減少」が47.8%、第二位は「競争の激化」が39.1%、第三位は「仕入単価の上昇」が36.2%と続きます。  
 今後、被災地の復興が進むなど、物流量は増加傾向にあると思われませんが、同業者間の競争は一層激しくなっています。今後、ガソリン価格の高騰や物流コスト見直しの傾向にともない、収益に及ぼす影響が懸念されます。

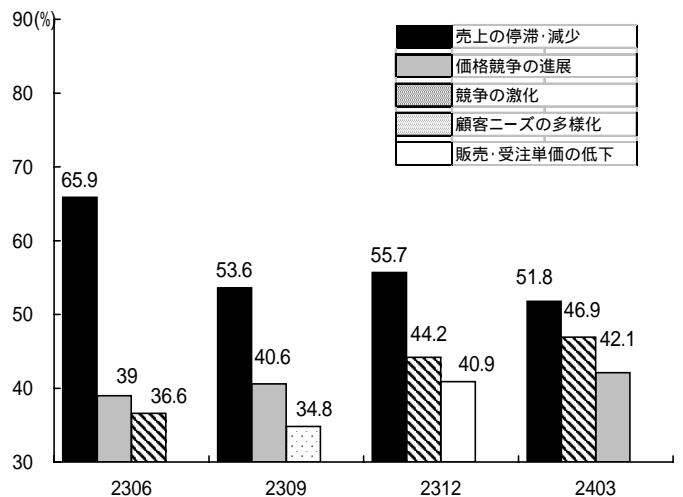
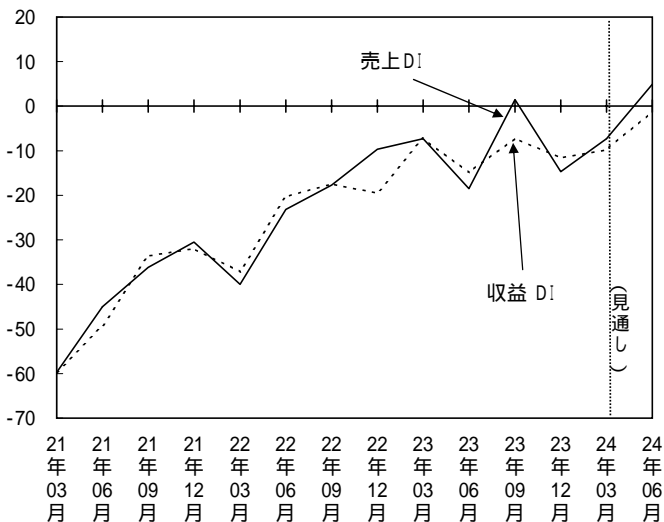
(中小企業診断士：小林、真下)

# 不動産業 (83社)

## 不足する不動産！慎重な購入者！

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



不足する手頃な物件  
 売上DIはマイナス7.3(前回比+7.4ポイント)、収益DIはマイナス9.8(前回比+1.7ポイント)となり、売上・収益DIともに上昇しました。平成24年4-6月期は、売上DIが12.2ポイント、収益DIは8.6ポイント上昇すると予想しています。  
 建売販売業者では、手頃な建売用地が少なく土地の確保が困難になっています。  
 また、賃貸料が下落するなか、業者は収益物件の購入に慎重になっています。

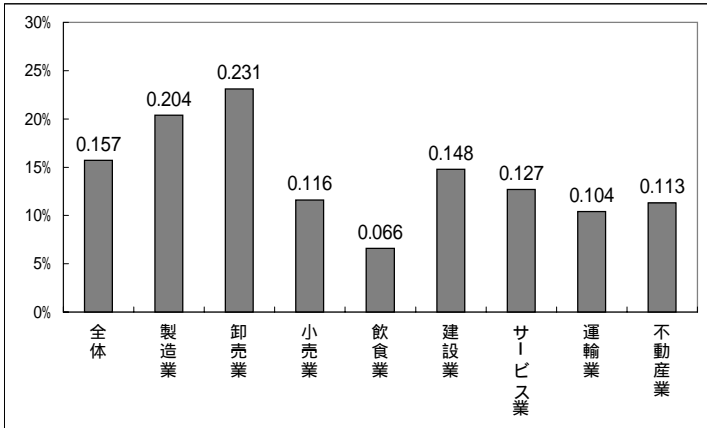
耐震構造を重視する傾向強まる  
 第一位「売上の停滞・減少」が51.8%、第二位は「競争の激化」が46.9%、第三位は「価格競争の進展」が42.1%となりました。  
 賃貸・分譲においては立地条件が最も重要ですが、最近では震災の影響で耐震構造を重視する傾向が強まっています。良好な収益物件は、価格が高くて現金で購入する人も一部にはいますが、大半は景気の先行きに見通しが立たないなか、不動産購入に慎重になっていると思われま

(中小企業診断士：兵庫、仲井、畑、宗和、永井)

# 24年4月昇給予定 (1,281社)

## 昇給実施企業は2割に届かず！

昇給実施予定(業種別)



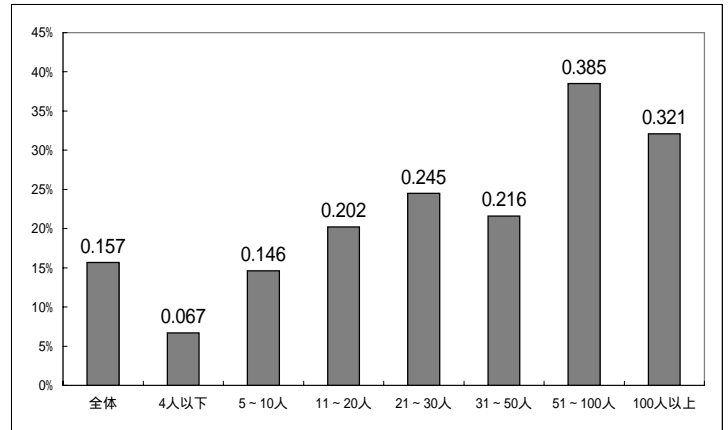
24年4月昇給実施予定企業の割合(業種別)

24年4月の昇給は、全体としては15.7%の企業が予定しています。(平成23年4月は15.1%)  
 前年と比べてプラス0.6ポイントで、昇給実施企業割合は、やや増加傾向にありますが、昇給に踏み切る企業は全体の約2割に届きません。  
 業種別では、製造業、卸売業が全体を上回り比較的高い水準となっている一方で、建設業、サービス業、小売業、不動産業、運輸業、飲食業では、全体を下回りました。  
 昇給実施予定では、卸売業と製造業が他業種を牽引しています。

24年4月昇給実施予定(規模別)

従業員数規模別で見ると、ほぼ企業規模に比例して規模の大きな企業ほど、昇給実施を予定する企業の割合が高くなっています。  
 また、昇給実施予定の企業は、支給予定企業が最も多い従業員51～100人の企業でも38.5%に止まり、昇給を見送る企業が約6割になります。  
 全体的に従業員規模が小さくなるほど昇給予定率が低くなる傾向(4人以下では6.7%)にあります。  
 景気の先行きが不透明で、事業者は人件費の増加に慎重です。

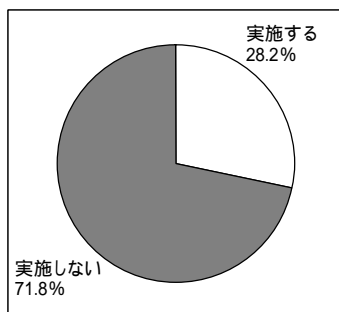
24年4月昇給実施予定企業の割合(規模別)



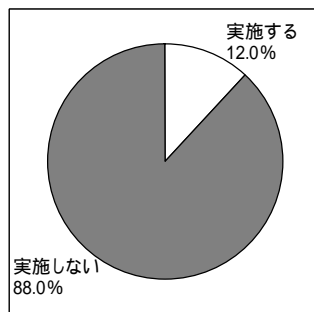
24年4月昇給実施予定(従業員過不足感別)

従業員過不足感別の昇給予定は、従業員が不足企業では、実施が28.2%となり、従業員が適正(12.0%)や従業員過剰(15.5%)な企業よりも昇給実施割合が上回りました。  
 しかし、昇給割合が比較的高い「従業員不足の企業」でも、実施しない割合は71.8%に達するなど、実施しない企業の割合が高くなりました。  
 ここでも景気の先行きが不透明感で、昇給の実施には慎重な企業が多いことが分かりました。

従業員不足の企業



昇給実施予定企業の割合  
従業員数が適正の企業



従業員過剰の企業

